

日本看護歴史学会 会報

日本看護
歴史学会
第74号
2020年7月15日

日本看護歴史学会第34回学術集会のご案内

「歴史から学ぶこれからの看護」

日 時：2020年9月4日（金）・5日（土）
会 場：徳島文理大学保健福祉学部看護学科・地域連携センター
学術集会長：金井 一薫（徳島文理大学大学院看護学研究科）



金井一薫 学術集会長

第34回看護歴史学会学術集会は、新型コロナウイルス感染症が世界に広がる中、一旦収束を迎えた我が国において、第二波の襲来が来ないことを祈りつつ、徳島市で開催の運びとなりました。

会の開催にあたって、まずはコロナ禍にあって、尊い生命を失われた方々とそのご遺族、関係者の皆様

心からの哀悼の意を表したいと思っております。そして全国でコロナ感染症と闘ってくださったすべての医療従事者の皆様に、心からの敬意と感謝の気持ちを捧げます。

さて、今年はナイチンゲール生誕200年という記念すべき年にあたります。クリミア戦争において感染症が爆発する現地に赴き、政府の衛生委員会のメンバーと共に、劣悪な衛生環境を改善し、そこに見事な看護を展開することで、更なる感染の防止に努めたナイチンゲールの功績に対して、165年を経て感染爆発が起こった国々において、新たな光が当てられています。今回の感染症によって、人類はこれまで体験したことのない生き方を求められ、生活様式全般に新しい価値観と行動規範が必要とされる事態となっています。感染症とナイチンゲール。これは本学会が重視する新鮮なテーマのひとつとなりました。

今年のテーマは「歴史から学ぶこれからの看護」です。そもそも歴史学は過去の事実の解釈で成り立つ学問ですから、近未来の看護のありようを描くには、まずは歴史を紐解き、歴史の中のどこに焦点をあて、そこから得られる知識を、どう解釈するかが問われます。事実はひとつしかないのですが、視点の当て方、解釈する者の立場などによって、様々な知られざる局面（事実）が浮き彫りにされます。歴史学の面白さでしょう。それと同時に何を資料として探し出すか、それを誰もが納得のいく方法でどう分析するかが鍵となります。残存する資料との果てしない格闘が歴史研究には付きものです。こうした地道な努力の成果を、今年は8本のセッションと一般講演を通してご披露いたします。

会長講演では、「ナイチンゲール思想をどう継承するか」という主題を受けて、『看護覚え書』と『産院覚え書・序説』を通してみえる近未来の課題」というテーマで語ってみたいと思っております。ここには、古くて新しい視点、そ

れも確かな科学的視点が横たわっています。昨年の学術集会では、「高度実践看護師の役割」について熱いディスカッションが交わされましたが、ナイチンゲール思想の中に、すでにこのテーマが隠れていました。『看護覚え書』から近未来に向けて、私たちはどのような視点を継承すべきなのか、そして『産院覚え書・序説』においてナイチンゲールが理想とした助産師の姿から、何を想起し、実現すればよいのか、このあたりに焦点を当て、高度実践看護師のありようにも迫っていきます。

続く小川典子先生も、ナイチンゲール思想から「21世紀の在宅看護」のあり方を説いてくださいます。ナイチンゲールは「病院看護の時代」を創る傍らで、「在宅看護を実現」させ、訪問（地区）看護師の養成にも努めました。21世紀は地域ケアの時代です。ナイチンゲール思想から継承すべきテーマをしっかりと受け止めたいと思っております。

続く石川榮作先生には、モラエス研究の第一人者として「ポルトガルの文人モラエスと徳島」というテーマでお話いただきます。ヴェンセスラウ・デ・モラエスはポルトガル人ですが、徳島の女性と結婚し、生涯徳島を愛し、多くの文章を書き残しています。新田次郎氏とそのご子息の藤原正彦氏の共著『孤愁』で有名になりました。『モラエス全集』を展示いたしますので、モラエスの世界をご堪能ください。

翌5日（土）には、「教育講演」として、川嶋みどり先生に「看護の危機と未来」というパワフルなテーマでご講演いただきます。“実践者を育てる教育”とそこから巣立つ看護師の現状分析から、今、何が問われているのかについて、明快な方向を示唆していただきます。

特別企画は「歴史から学ぶ学問としての看護に必要なもの」と題して、お二人の先生に近年の研究を通してみえてきた実態について報告していただきます。北島先生と前田先生は、看護学という学問が戦後どのような経緯をたどって今日に至っているか、その中で看護の学問化に携わってこられた31名の識者からの聞き取りをもとに、看護の大学化や学問化の現状が何を語っているかについて明らかにしていただきます。

さらに2日間を通して、3号館3階において「ナイチンゲール展」を開催いたします。

ナイチンゲール看護研究所の協力によって貴重なナイチンゲール文献や関連グッズをご披露いたします。お時間を作ってお立ち寄りください。

日本看護歴史学会第34回学術集会プログラム

日 時	プログラム		
9月4日 (金)	9:20～	開場・受付	
	9:50～	学術集会長挨拶	
	10:00～	学術集会長講演	ナイチンゲール思想をどう継承するか —『看護覚え書』と『産院覚え書・序説』を通してみえる近未来の課題— 金井 一薫：徳島文理大学大学院看護学研究科・教授
	11:10～	教育講演 I	ナイチンゲールが描いた 21 世紀の在宅看護 小川 典子：順天堂大学・教授
		演題発表	(口演) I 群
	12:10～	昼食	
	13:10～	特別講演	ポルトガルの文人モラエスと徳島 石川 榮作：放送大学徳島学習センター・所長
		演題発表	(示説) I 群
	14:20～	理事会セッション I	戦争と感染症—そのとき看護師は —歴史に学ぶ感染症と看護— 川原由佳里：日本赤十字看護大学・教授
		演題発表	(口演) II 群
15:30～	理事会セッション II	新型コロナ感染症対策における看護の力 —徳島県の看護活動と今後に向けて— 稲井 芳枝：徳島県看護協会・会長	
	理事会セッション III	歴史研究で心掛けていること —論文投稿の経験、資料の集め方を中心に— 滝内 隆子：金沢医科大学看護学部・学部長	
16:40～	総会		
9月5日 (土)	9:00～	受付開始	
	9:30～	教育講演 II	看護の危機と未来 川嶋みどり：日本赤十字看護大学・名誉教授
		演題発表	(示説) II 群
	10:40～	特別企画	歴史から学ぶ学問としての看護に必要なもの —看護教育の黎明期を知る 31 人の識者からの意見をもとに— 北島 泰子：東京有明医療大学・准教授 前田 樹海： 同 ・教授
12:00～	次期学術集会長・挨拶	渡部 久子：国際聖路加大学大学院看護学研究科・教授	

参加登録について

[参加登録受付期間] 2020年1月27日(月)～7月27日(月)迄

- 日本看護歴史学会 第34回学術集会ホームページ (<https://jsnh34.secand.net/>) からのオンライン登録をお願いいたします。

事前申し込みについて

- 事前申込期間

2020年1月27日(月)～7月27日(火)まで。それ以降は当日受付となります。

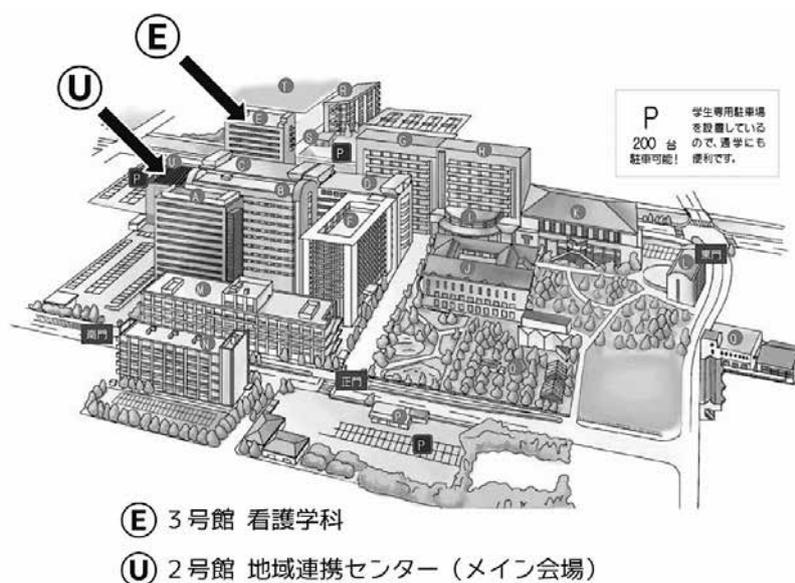
参加費	会 員	非会員	学 生
事前申込	7,000円	8,000円	—
当日受付	8,000円	9,000円	2,000円

※ 学生(大学院生は除く)は当日学生証をご提示の上、受付にてお申込みと参加費のお支払いをお願い致します。(『講演集』の配布あり)

【会場へのアクセス】

- ・ JR徳島駅から路線バスをご利用の場合 約15分
- ・ JR徳島駅からタクシーをご利用の場合 約10分(およそ1,000円)
- ・ 車をご利用の場合 駐車場はありますが、今年度は9月4日(金)は通常授業となっておりますので、満車の可能性があります。

【校舎配置図】 「南門」からの入場が会場に最も近くて便利です。



理事会セッション I

戦争と感染症—そのとき看護師は— —歴史に学ぶ感染症と看護—

講師：川原由佳里（日本赤十字看護大学）

司会：川嶋みどり（日本赤十字看護大学名誉教授）

屋宜譜美子（湘南鎌倉医療大学）

クリミア戦争時、スクタリの兵舎病院での高い死亡率の要因を探ったナイチンゲールは、兵士の死が銃弾によるものよりも過密と不潔な環境による病気（院内感染）が圧倒的に多かったことを、オリジナルな統計図により示し、死ななくてもよいのちが奪われたことを明らかにしました。

その後、1918年の第一次世界大戦時にインフルエンザ（俗にスペイン風邪）が猛威を奮い世界中に拡がりました。日本の死者数も約38万人以上だったといわれます。

第二次世界大戦時においても、戦地での栄養不足、不衛生な環境などによる各種急性伝染病や結核による死が、飢餓とともに多かったといわれます。戦争末期1946（昭和21）年には、国内でも3万2000人がチフスに罹患しました。

それぞれの時代背景のもとで、その時、看護師はどのような活動をしたのでしょうか。未知の新型コロナウイルス感染症拡大が目下進行の今、時代を超えて歴史から学べることを、みなさまとともに探ってみたいと思います。

理事会セッション II：特別委員会

新型コロナ感染症対策における看護の力 —徳島県の看護活動と今後に向けて—

講師：稲井 芳枝（徳島県看護協会）

司会：山崎公美子（日本医療大学）

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、看護職は全力で日々の看護ケアに取り組んでいます。本セッションでは、感染が蔓延していた他県とは違った事情や、徳島県の感染対策を中

心とした看護職の活動を報告して頂きます。「看護職が誇りとやりがいを持って、看護の力で健康な社会を築く」ことをキーワードにした徳島県の取り組みや今後の課題について報告頂きます。

理事会セッションⅢ：研究活動推進委員会

歴史研究で心掛けていること

—論文投稿の経験、資料の集め方を中心に—

講師：滝内 隆子（金沢医科大学）

司会：丸山マサ美（九州大学大学院）

屋宜譜美子（湘南鎌倉医療大学）

5ヵ年計画で実施してきた看護歴史研究の研修会も昨年で終了いたしました。これからはさらに会員の皆様の歴史研究への疑問に答えた研修会を企画してまいります。今年度は、看護教育、学校看護婦、養護教諭、看護技術、教育方法などをキーワードとして、日本看護歴史学会誌への何本もの投稿をはじめ、幅広い分野で論文を執筆、研究成果を発表されてきた滝内隆子先生

を講師にお迎えします。

歴史研究では、史料・資料を集めることに苦心します。さらに論文執筆では、論述にも多くの時間を要します。

滝内先生の論文投稿の経験を踏まえ、歴史研究で心掛けていること、資料の集め方など、経験の中から多くの示唆を会員の皆様に伝えて頂きます。



新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 2020年1月～2020年6月入会

小川 景子 (03036)	坂井 哲博 (20001)
降旗 幹子 (20002)	村田 奈津 (20003)
棚田 芳彦 (20004)	斎藤ミチヨ (20005)
泉澤 真紀 (20006)	岩沼百合子 (20007)



お知らせ

■事務局から

2020年度会員動向(2020年6月末現在)

1. 会員数	329名
2. 入会者	8名
	(1名再入会)
3. 退会者	16名



徳島県の花(酢橘の花)

編集後記

新型コロナウイルス感染と豪雨による河川の氾濫・洪水・土砂崩れによって、私たちの生活は脅かされております。毎年続くつらい出来事。今年の学術集会は、先人から叡知を学び、災禍を乗り越えるヒントがたくさん網羅されております。会報を見て、多数の皆様方々の参加をお待ちしております。

日本看護歴史学会会報 第74号

企画・編集 小田 正枝（徳島文理大学大学院名誉教授）
三上 れつ（前中部大学）
山崎 裕二（日本赤十字看護大学）

発行責任者 加藤 重子（事務局会報担当）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒737-0004
広島県呉市阿賀南2丁目10-3
広島文化学園大学看護学部内
加藤 重子/岡田 京子
TEL 0823-74-6000（代表）
FAX 0823-74-5722
e-mail katoi@hbg.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>